

キリスト教保育

年主題 ともに

論説

保育環境の

考え方・捉え方(2)

戸田雅美

小論

幼保小接続を

ともに考える(2)

久禮雄市朗

礼拝のお話

西脇京子



2025 SEPT.

9

心を新たにすることによって、造りかえられ、何が神の御旨であるか、何が善であって、神に喜ばれ、かつ全きことであるかを、わきまえ知るべきである。

聖書 口語訳聖書・ローマ人への手紙12章2

「聖書にきく」ということは、聖書から何か小さな慰め、小さな励まし、小さな教訓を引き出すことであってはならない。私たちが聖書から聞くことができることは、もっと大きなことなのである。そして「きく」ということは、耳で聞いて知識として留めておくことであってはならない。心できいて、それが私たちの生き方の中に現れてくるような聞き方でなければならない。聖霊が私たちの上に働いて、そのようなことが、私たちにおきてくることを祈らねばならない。

パウロは、私たちは造り変えられねばならないという。神のかたちにかたどってつくられたはずのそのかたちを、私たちは失っている。あとかたをとどめないまでに失っている。だがどのようにしたら、それを取り戻すことができるだろうか。自分の力で取り戻せないことを私たちは知っている。ただ、神の憐みにすがるほかない。神の憐みを受けることによって、私たちは造り変えていただくことができる。私たちはどのようにもがいても、自分で自分から抜け出すことはできない。もがけばもがくほど、いよいよ深く罪の中に沈んでゆくほかない存在なのである。その絶望的な私、嫌悪に堪えない私を、神は新しい人間に造り変えてくださる。

そのとき、何が私たちに起きるのか。昨日までと同じような人間が、同じような状況、同じような思い煩いの中に生きてるように見えるかもしれない。しかし今日、ここに生きている私は復活のキリストの命によって造り変えられている私であり、キリストとともに生きている私なのである。「四方から患難を受けても、窮しない。途方にくれても行き詰まらない。迫害にあっても見捨てられない。倒されても滅びない。」(コリントの信徒への手紙二4章8、9) 姿とされるのである。何回でも立ち直り、何回でもやり直すことのできる人間なのである。

もし、私たちが人生に行き詰まりを感じ、目標を失っているならば、それはキリストから何を与えられているかを忘れているからである。しかし、希望を失ってしまっている人間と、その世界に、再び神が生命の息を吹き込みたもうことを私たちは信じる。キリストの死とよみがえりが、人間が新しくされ、造りかえられることの、約束のしるしとなっているからである。

江口 武憲・執筆 (当時・日本福音ルーテル小岩教会牧師)
1974年「キリスト教保育」誌9月号より

キリスト教保育

第678号9月号



年主題

ともに

【カリキュラム】

9月 月のねがい表

心にとめて 寺田千栄

実践報告 愛隣こども園

実践からの学び 大久保めぐみ

心にとめて 大瀧知子

実践報告 戸塚ルーテル教会附属幼稚園

実践からの学び 柳下志延

〈連載〉私たちのキリスト教保育 星野 牧

〈連載〉せんせいのお話ききたいな 菊野秀樹

42 38 37 32 30 29 24 22 21

幼子とともにキリストへ	2
目次	3

〈巻頭言〉 初めての祝い—洗礼式	山下 幸 4
------------------	--------

〈論説〉 保育観境の考え方・捉え方 (2)	戸田雅美 6
-----------------------	--------

—先人たちの思索の過程に着目して

戸田雅美 6

〈小論〉 幼保小接続を共に考える (2)	久禮雄市朗 14
----------------------	----------

久禮雄市朗 14

聖書にきく・お話	黒米理恵 18
----------	---------

18

絵本のとびら 塚尾日菜子

私たちの園では 松村幹子

目福口福耳福 中村福助

礼拝のお話 西脇京子

風 佐藤徹 編集子 赤木敏之

連盟だより

カット 中畝治子 金井ユリ 藤安初枝 小鯛みのり

松成真理子 菰田とみ子 中川晶子 表紙絵 田中横子

